


教材・支援機器活用実践事例

【音楽が苦手な児童に、意欲的な参加ができるための支援】

子どもについて	学校・学級・学年	小学校 通常の学級 中学年
	対象の障がい	ADHD傾向
	授業形態	通常の学級において一斉授業
学习上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指示が一度では通らず、個別に声をかける必要がある。 ○ 学習面では、分からないことがあるとパニックを起こし、泣いたり物を投げたりする。体育科や音楽科に対する苦手意識が高い。成功体験も少ない。 ○ 生活面では、思い通りにいかないと、泣いたり、友達を蹴ったり突き飛ばしたりする。作業に時間がかかり、整理整頓が苦手である。読書やお絵かきなどを好む。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>『音名カードでせんりつづくり』:「海風きって」</p> 
	活用のねらい	音楽科の授業に極端に苦手意識をもち、最初からあきらめて授業に参加しないことがある。そのため、学習活動に参加し、関心や意欲を高めることをねらいとして、教材を作成した。学習内容は、簡単な旋律を創作し、鍵盤ハーモニカで演奏すること。
授業における支援・教材の配慮事項		歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりすることに苦手意識をもっているため、はじめから「できない」と決めつけてやらないことが多い。そこで、音名カードを使って移動するだけで音づくりができるように教材を作成した。
子どもの変容や評価		何人か友達が行っているのを見て、自分もやってみたいという意識が芽生え、活動に参加することができた。また、自分のつくった曲を「演奏してみたい」という気持ちにつながり、鍵盤ハーモニカで演奏することができた。友達からも称賛を得た。